

大阪府の信用金庫の再編と貸出市場における競争

神戸大学大学院 石橋尚平

1990年代以降、わが国の協同組織型地域金融機関は再編を繰り返し、数が大きく減少した。大阪府においても信用金庫ならびに信用組合は、破綻や合併により数が大きく減少した。1990年度末に大阪府の信用金庫は23金庫あったが、2005年度末には10金庫に再編された。また同期間において、大阪府の信用組合は32組合から11組合に再編された。とりわけ大阪府の信用金庫は1997年度以降に再編が本格化し、短期間に数を急減させている。すべての信用金庫が再編を経たわけではなく、破綻した信用金庫の事業譲渡や合併によって規模を拡大させた信用金庫もある一方、再編を経なかった信用金庫もあった。再編期を通じて、大阪府の信用金庫ならびに信用組合の貸出市場の寡占化が進み、貸出金利の設定が協調的、共謀的になっていないかどうかを当論文で検証した。

Bresnahan-Lau の手法に基づいた、Coccoresse (2002) ならびに同 (2005) が採用する手法を用いて、1990年度から2005年度における大阪府の信用金庫ならびに信用組合の貸出市場を分析した。Coccoresse (2002) ならびに同 (2005) は、イタリアの銀行の再編期における貸出市場の競争の度合いを分析し、1988-2000年における同市場が競争状態にあったと結論している。

分析の期間については、1990年度-2005年度とし、さらに信用金庫の合併が本格化した97年度以降を境として1990年度-1996年度の前期と1997年度-2005年度の後期に分けて3つの期間とした。サンプル数は大阪府の信用金庫(10~23金庫)に、大阪府の信用組合の加重平均値1を加えた数である。需要関数、費用関数、利潤関数の三本のモデル式を設定し、3SLSで推計して市場の状態を判別するためのConjectural Variation(推計的変動)の値を得た。その結果、いずれの期間においても、同市場は競争の状態にあることが分かった。

しかし、一方でモデル式から推計されるマークアップ率は、1990-1996年度の値に比べ1997-2005年度の値が高くなっている。後期も同市場は競争状態にあるものの、再編が進むにつれて競争が緩和し、独占的な価格付けの方向に近づいたと言える。